

経営比較分析表／団体全体（令和5年度決算）

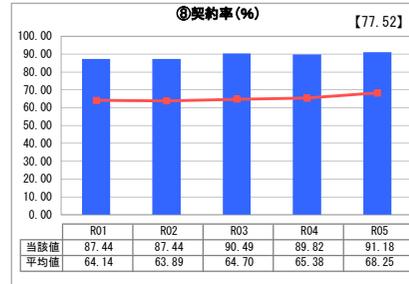
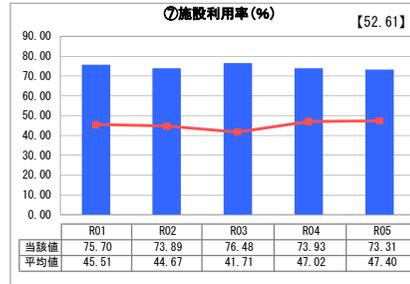
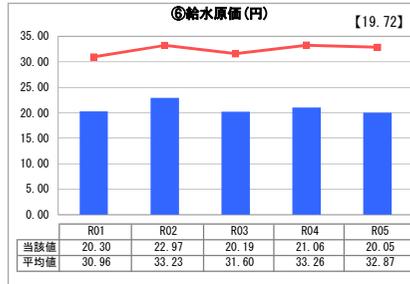
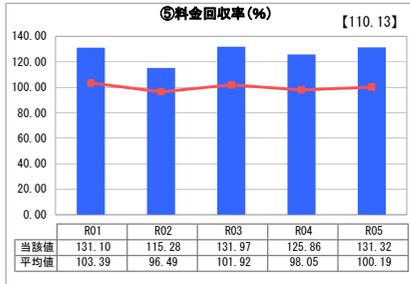
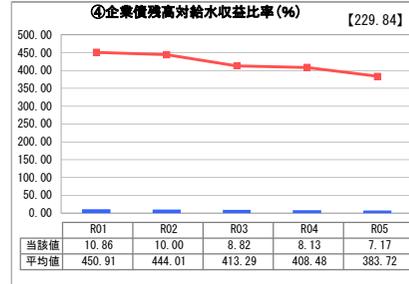
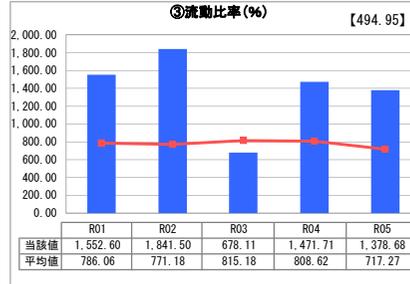
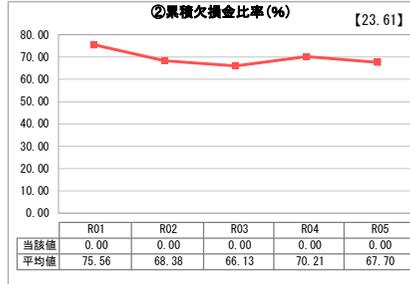
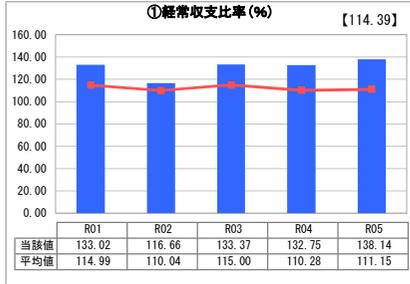
岡山県 岡山市
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	28,000	小規模	2	20,528
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	91.2	14	25,530	自治体職員	

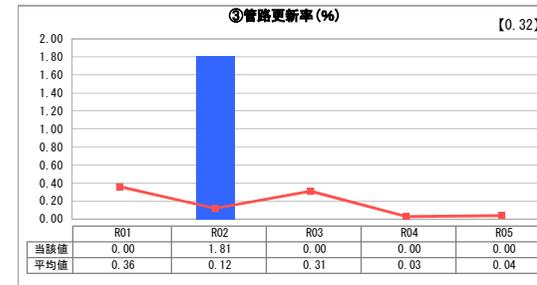
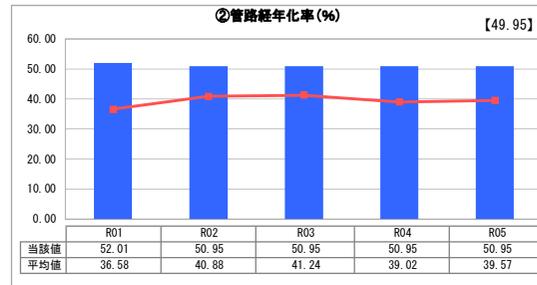
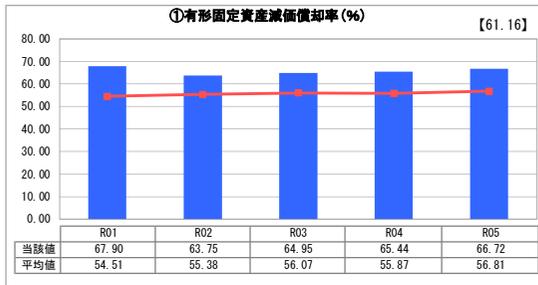
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収支の状況を示す「経常収支比率」について、令和4年度と比較して好転しているのは、資産減耗費の減等により経常費用が減少したことによるものです。
短期的な債務に対する支払能力を表す「流動比率」については、令和3年度に一時的な減少がありました。令和4年度は、令和5年度に比べて、平均並みの水準に戻っています。企業債の規模を表す「企業債残高対給水収益比率」は、企業債の新たな借入を行っていないため、類似団体平均値と比べると、かなり低い値となっています。
また、施設の利用状況や適正な規模を表す「施設利用率」、事業の収益力を表す「契約率（配水能力に占める契約水量の割合）」は過去5年間類似団体平均を上回る値を維持しています。

2. 老朽化の状況について

管路経年率と有形固定資産減価償却率は、ともに類似団体平均値より高くなっています。令和2年度に管路更新工事を実施したため、令和元年度と比較すると若干指標値が改善していますが、施設・設備は更新期を迎えていることもあり、有形固定資産減価償却率は徐々に上昇しています。
管路更新率は、直近3年間は対象となる管路工事を実施していないため、更新率は0%が続いています。

全体総括

本市では老朽化した施設や管路の計画的な更新と災害等に備えた耐震化が課題となっています。この対応策として、令和6年度には料金改定による給水収益の増収、更に上水道との施設共用化によって更新費用を抑え、経営改善を図ります。しかしながら、本事業の経営環境は決して楽観できるものでなく、将来にわたって安定的に事業を継続していくため、水需要に見合った事業マネジメントにより効率的な経営に努めます。